

1. 現行税財政制度における現状と問題点

(1) 大都市としての実態

①母都市としての役割を果たす大阪市

大阪市は、高度な都市機能の集積により、広範な通勤圏をもち、大都市圏の母都市として重要な役割を果たしています。

—大都市圏の母都市としての必要性から実施している事業—

- (例) ○地下鉄等の都市交通網の整備
 ○市立大学
 ○中央卸売市場等生鮮食料品流通施設
 ○長居陸上競技場、中央体育館等の大規模スポーツ施設
 ○障害者スポーツセンター等の大規模社会福祉施設

各種施設等利用者に占める市外居住者の割合

所要税等 (18年度決算) (2006)

	各種施設等利用者に占める市外居住者の割合		所要税等 (18年度決算) (2006)	
	市内居住者	市外居住者	事業名	所要税等
地下鉄乗車人員 (12年) (2000)	33.6%	66.4%	地下鉄事業	237億円
市バス乗車人員 (12年) (2000)	70.0%	30.0%	バス事業	11億円
社会教育施設 利用者(19年) (2007)	31.2%	68.8%	社会教育施設の 整備・運営	89億円
市立大学入学者 (19年度) (2007)	17.0%	83.0%	市立大学の 整備・運営	157億円
市立大学附属 病院患者(19年) (2007)	57.3%	42.7%	大学附属病院事業	22億円
中央卸売市場の 搬出先(19年) (2007)	32.4%	67.6%	市場事業	52億円
救急件数 (19年) (2007)	82.9%	17.1%	救急業務	50億円
工業研究所受託 研究件数(18年度) (2006)	56.5%	43.5%	工業研究所の 運営	12億円

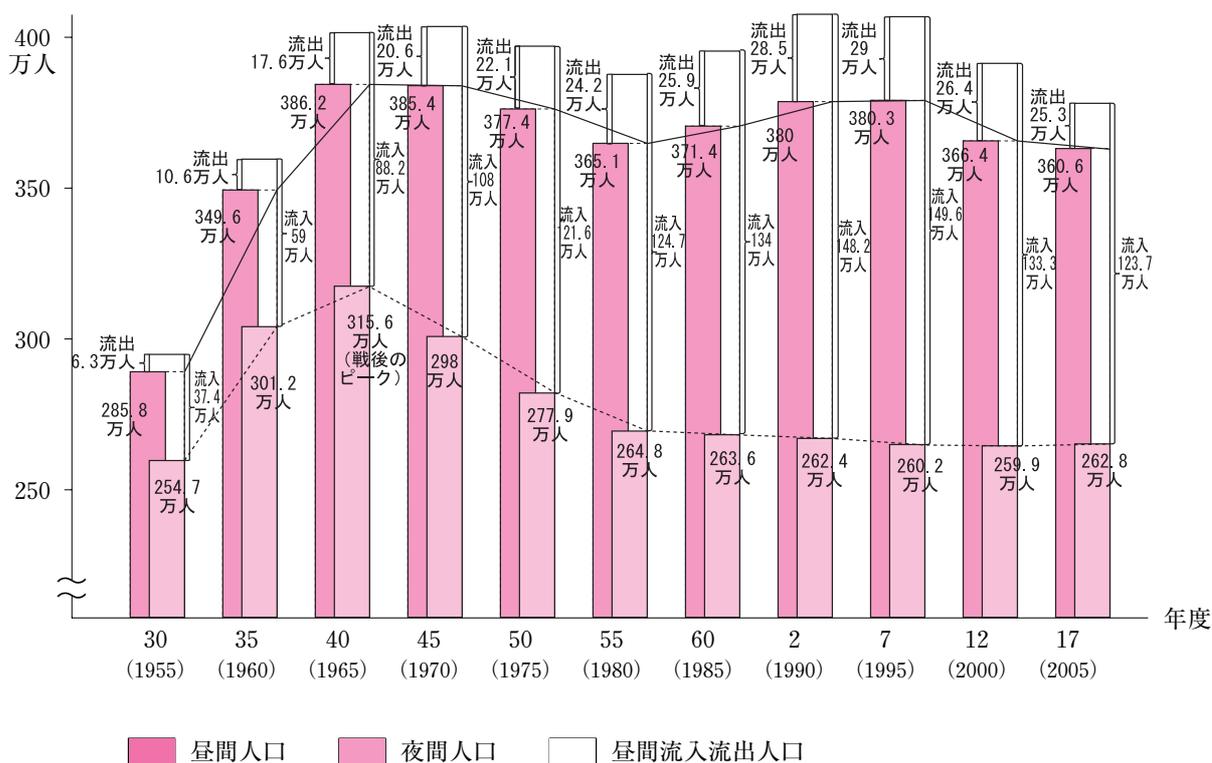
(注1) 社会教育施設利用者は、美術館、東洋陶磁美術館、大阪歴史博物館、自然史博物館、科学館の利用者を示す。

(注2) 市立大学は18年(2006)4月より、公立大学法人大阪府市立大学に移行している。

②膨大な昼間流入人口と顕著な昼夜間人口比率

夜間人口は昭和40年の315万人をピークとして減少していますが、昼間人口については、多少の増減はあるものの、360万人から380万人の水準で引き続き推移しています。

大阪市の夜間人口と昼間人口の推移



—大阪市内における昼夜間人口比率の推移—

年次	30 (1955)	35 (1960)	40 (1965)	45 (1970)	50 (1975)	55 (1980)	60 (1985)	2 (1990)	7 (1995)	12 (2000)	17 (2005)
昼夜間人口比率	1.12	1.16	1.22	1.29	1.36	1.38	1.41	1.46	1.46	1.41	1.38

(注) ・ 昼間人口 = 夜間人口 + 昼間流入人口 - 昼間流出人口、昼夜間人口比率 = 昼間人口 / 夜間人口
 ・ 昭和55年(1980)からの昼間人口の計算の基礎となる常住(夜間)人口は、年齢不詳の者を除いた人口
 (55年(1980) 2,645,419人、60年(1985) 2,633,687人、2年(1990) 2,603,789人、7年(1995) 2,596,486人、
 12年(2000) 2,595,394人、17年(2005) 2,594,686人) を用いている。

資料：昭和30年(1955)は「大阪市昼間人口調査結果」、昭和35年(1960)以降は「国勢調査」

**事務所・事業所の集中に伴う昼間流入人口等、物と人の集中により増高する
財政需要—行政は量的に大きく、質的に高度化—**

- 都市基盤の充実 (街路、公園事業など)
- 生活環境の充実 (清掃、下水道事業など)
- 利便性の確保 (地下鉄、バス事業など)
- 防災機能の充実 (消防・救急業務など)

— 大都市の昼間人口 —

	人 夜間人口 (A)	人 昼間流入人口 (B)	人 昼間流出人口 (C)	人 昼間人口 (D)	% 昼間増加率 (D)/(A)-1	% 昼間流入率 (B)/(A)
大 阪 市	(2,594,686) 2,628,811	1,239,051	252,062	3,581,675	38.0	47.8
東京都区部	(8,351,955) 8,489,653	3,354,289	421,545	11,284,699	35.1	40.2
札幌市	(1,877,965) 1,880,863	85,032	69,051	1,893,946	0.9	4.5
仙台市	(1,020,160) 1,025,098	132,564	53,743	1,098,981	7.7	13.0
新潟市	(781,638) 785,134	53,403	34,412	800,629	2.4	6.8
さいたま市	(1,172,677) 1,176,314	214,707	309,746	1,077,638	△8.1	18.3
千葉市	(919,550) 924,319	175,293	200,816	894,027	△2.8	19.1
川崎市	(1,326,152) 1,327,011	229,432	401,148	1,154,436	△12.9	17.3
横浜市	(3,545,447) 3,579,628	399,345	739,648	3,205,144	△9.6	11.3
静岡市	(700,575) 700,886	54,675	28,040	727,210	3.8	7.8
浜松市	(800,997) 804,032	46,674	41,301	806,370	0.7	5.8
名古屋市	(2,193,973) 2,215,062	516,793	194,570	2,516,196	14.7	23.6
京都市	(1,460,688) 1,474,811	240,589	118,297	1,582,980	8.4	16.5
堺市	(825,638) 830,966	122,110	176,168	771,580	△6.5	14.8
神戸市	(1,520,551) 1,525,393	207,498	180,078	1,547,971	1.8	13.6
広島市	(1,144,498) 1,154,391	94,329	64,426	1,174,401	2.6	8.2
北九州市	(992,654) 993,525	78,115	50,322	1,020,447	2.8	7.9
福岡市	(1,384,925) 1,401,279	262,548	76,289	1,571,184	13.4	19.0

(注) 夜間人口(A)欄上段()書数値は、昼間人口、昼間増加率、昼間流入率の算出基礎となる常住人口で、年齢不詳の者を除いた数値である。

資料：平成17年(2005)国勢調査

◎大阪市の昼間流入人口は、大都市の夜間人口に匹敵する規模となっている。